



第1回エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座開催

7月25日26日に無事に第1回エンドオブライフ・ケア援助者養成基礎講座を東京・浅草橋の研修室で開催することができました。今まで人生の最終段階に対応できる人材養成講座(JSP)として、めぐみ在宅クリニック内で行ってきた2日間研修会を、エンドオブライフ・ケア協会の理事の諸先生方にご指示いただき、協会本部の千田さんとブラッシュアップしてきたものです。従来のJSPでは、自宅・介護施設で求められる症状緩和に3時間、意思決定支援にも2時間近く時間を割いていました。しかし、北里大学の小野沢先生からの指摘もあり、思いきって短くしました。そのかわり、スピリチュアルケアに関わるコンテンツである、苦しむ人への援助と5つの課題をふくらませて、ロールプレイを含む演習を充実しました。一番こだわっているのは、苦手意識から、関わる自信への変化です。症状緩和も大切ですし、意思決定支援も大切でしょう。しかし、第1線の現場で、もっとも障害となっているのは、まもなくお迎えが来る人への具体的な関わり方であると、看取りに関わる仕事を通して感じてきました。励ましは通じません。気の利いたユーモアだけでは対応できません。何で私がこんな苦しみを味わうの!という魂の叫びを前にして、逃げないで関わるための具体的な方策を、なるべくシンプルに伝えることが必要です。いのちの授業として、子ども達に伝えて来た自尊感情、自己肯定感を育む援助を具体的に2日間の研修に取り入れました。

全国から85名の参加者があり、2日間にわたり熱く学ぶことができました。この研修会の特徴は医療関係に限定しないことです。今回の参加者のうち35%は、介護職です。つまり医療者しか理解できない研修ではなく、医療を決して専門にしない介護職員でも理解できる内容であるところに特徴があります。

その後の感想を拝見すると、“30年余の看護業務の中で、苦手意識を持っていた人生の最終段階におけるかわりについて、具体的に教えていただきました”、“介護職として寄り添えることがたくさんあり、言語化、反復、沈黙は介護職でもできるということを学ばせていただきました”、“人生の最終段階を迎えた人に、声をかける内容は、これまで数少なかった。相手を知ることで、声掛けの幅を広げることができることを今回学んだ”、“多職種の方々とたくさんの学びを共にさせていただき、援助を仕事にすることへの怖さが解消された”、“医療者の方々と同じ土俵で学ばせていただいただけでも私にも専門職としてできることがあるという自信を少しだけいただきました”、終末期にある患者やその家族との関わり方、会話の仕方、キーワードなど、なんとなくわかっていた気がしていたことが言葉にできたことで、間違っただけではなかったという安心感と、他の人にも伝えられる(仲間が増やせる、教育できる)期待感が持て、重たいテーマに、前向きになれました“と、評価を頂きました。問題は、学んだことを具体的に現場でどのように実践していくかです。

まだ、始まりにすぎませんが、これから、各地域で人生の最終段階の人と誠実に援助できる仲間が増えて行くことを期待して、地道に活動を続けていきたいと思っております。

小澤竹俊

独居の認知症への支援を考える

めぐみ在宅クリニックの課題の一つに、独居の認知症の人への支援があります。今までは、一人で通院ができていたり、あるいは、ある程度生活を送ることができていたりした人が、徐々に一人で生活を送ることが困難になってきます。経済的に余裕があれば良いのですが、年金ぎりぎりまで過ごされている人の場合、介護施設入居ということも選択が難しい場合があります。答えは一つではないのですが、どのような支援が可能であるか、地域連携の質が試される課題です。徘徊だけではなく、様々な生活支援、医療的な支援を含めて、みんなで援助の可能性を探ってみたいと思います。第97回地域緩和ケア研究会では、独居の認知症への対応を取り上げました。話し合われた内容については、あらためてご報告したいと思います。

学生実習

めぐみ在宅クリニックでは、慈恵医科大学の医学生の家庭医実習を受け入れています。この7月にも医学部医学科5年生の実習を引き受けました。わずか1週間ですが、大学病院では学ぶことのできない在宅での緩和ケアの現場を目の当たりにして、とても良い表情で大学に戻ることができました。この経験を活かして、良い医師になってくれることを心から応援しています。

BBQ

クリニックの夏の行事の一つにBBQがあります。今年も台風が近づくなか、無事に終えることができました。院長はじめスタッフみんなキャラが濃いですが、チームワークが良く、24時間365日体制で診療にあたっています。この10月には常勤医7名、非常勤医師6名体制となります。



診療実績

	2006-2014年	2015年 1月-4月	2015年 5月	2015年 6月	2015年 7月	2015年 計	総計
訪問回数	32,656	2,556	712	753	786	4,807	37,463
自宅永眠	1,286	73	22	17	19	131	1,417
施設永眠	129	9	4	1	3	17	146
在宅(自宅+施設)	1,415	82	26	18	22	148	1,563
病院永眠	330	21	4	5	6	36	366